

# Arthuriana Japonica: Newsletter No. 31

October 2018

## 国際アーサー王学会日本支部会報 Société Internationale Arthurienne Section Japonaise

### 目次

I. 2017年度年次大会報告	1
年次大会プログラム	1
総会議事録	2
研究発表要旨	4
シンポジウム発表要旨	5
II. 電子化について	8
III. メーリングリスト登録アドレスについて	8
IV. 会計からのお願い	8
V. 学会サイトについて	8
VI. 第32回年次大会について	8
VII. 研究発表・シンポジウム企画募集	8
VIII. 会員名簿に関するお願い	9
IX. 文献情報	9
英文学	9
独文学	10
北欧文学	10
仏文学	10
中世ラテン語文学・伊文学・西文学	11
補遺～中世ヨーロッパを舞台にした漫画～	11

### I. 2017年度年次大会報告

日本支部の2017年度年次大会は、下記の通り滞りなく開催されました。ご参加いただいた皆様ならびに開催校の篠田勝英先生に、厚く御礼申し上げます。

[日時] 2017年12月9日（土）12:40より

[場所] 白百合女子大学（本館 9012教室）

[大会費] 1,000円（会員のみ/学生無料）

[懇親会費] 5,000円（学生3,000円）

### 年次大会プログラム

\*開会（12:40）

\*開会の辞 支部長 不破有理（慶應義塾大学）

\*開催校ご挨拶 篠田勝英（白百合女子大学）

\*第1部：研究発表（12:45～）

司会：高木眞佐子（杏林大学）

「Vinaver, E. K. Chambers, C. S. Lewis：微妙な関係」

高宮利行（慶應義塾大学名誉教授）

司会：福本直之

「『新版ルナール』と『アーサー王の死』における運命の女神」

高名康文（成城大学）

司会：嶋崎陽一（龍谷大学）

「ゴットフリート版『トリスタン』におけるマルケ王の人物像：アーサー王との比較を通じて」

田中一嘉（一橋大学大学院 特別研究員）

\*第2部：シンポジウム（15:00～）

「ポップ・アーサリアーナ：サブカルチャーにおけるアーサー王物語の受容と変容」

コーディネーター：小路邦子（慶應義塾大学非常勤講師）

「Role-Playing Gameにおける中世主義とモンスター表象：日本における受容のあり方を巡って」

岡本広毅（立命館大学）

「アーサー王物語の登場人物の諸相：中世と現代の人物描写イメージを比較して」

滝口秀人（自由ヶ丘学園高等学校）

「そして伝説へ：『ドラゴンクエスト11』における騎士道とアーサー王」

小宮真樹子（近畿大学）

「『キング・アーサー』(2017)に見る中世のモチーフとその変容」小路邦子（慶應義塾大学非常勤講師）

\*会員研究動向・情報交換フォーラム（17:00～）

(1) 新刊情報のご紹介：

『アーサー王伝説—19世紀初期物語集成一』  
Eureka Press, c/o Edition Synapse, 2017年. (不破有理先生)

(2) 催し物のご案内：

- 11月10日（金）～2018年1月20日（土）徳島県立文学書道館「文学企画展 仏文学者・佐藤輝夫の軌跡」、11月18日（土）徳島県立文学書道館「〈座談会〉佐藤輝夫のこと」（佐佐木茂美先生）  
\*支部総会（17:15～）  
\*閉会の辞（17:45～） 副支部長 篠田勝英（白百合女子大学）  
\*懇親会（18:00～）学生ホール「フォンス・ヴィーテ」

2017年度年次大会も、会員・非会員の皆さんに多数ご参加・ご協力いただき、無事に開催することができました。心より御礼申し上げます。また当日の運営には白百合女子大学の篠田勝英先生のご尽力のもと、同大学院生の小川実優さんと深民麻衣佳さんにご協力いただきました。厚く御礼申し上げます。ご参加・ご協力いただいた皆さんに感謝申し上げます。（文責：新居明子）

## 総会議事録

### \*報告事項

(1) 2017年の活動について

年次大会の応募要項について報告があった。  
電子化については、郵送希望をお知らせいただいた会員を除き、2018年2月から電子媒体による文書配信に切り替わることが通知された。

(2) 書誌活動報告

*BIAS (Bibliography of the International Arthurian Society)* 第69号と2017年度Newsletterのための業績募集について報告があった。

*BIAS*については、2017年ヴュルツブルク国際大会にて、会員以外もアクセス可能なオンラインデータベースへ移行する案が採択されたことを受け、前年度本部にエクセル版にて提出済みであった68

号用の日本支部会員業績データを、Web上の入力フォーマットにて10月末に再提出したこと、69号は1月1日までに提出予定であること、来年度以降は締め切りが5月1日になること、またWeb版に移行後は、印刷版を1部ずつThe Centre for Arthurian Studies in Bangorにアーカイブとして保存することが説明された。なお、現在Web版への過渡期であるため、今後もインデックスフォーマット等の変更が予想される。

Newsletter掲載の書誌情報に関しては、当学会会員であるか否かに関わらず、国内で出版されたものを中心に西洋中世文学関連の刊行物を紹介してきたが、今後の方針については次期書誌に委ねるということが伝えられた。

(3) 学会サイト「アーサー王伝説解説」について

林邦彦先生の「北欧におけるアーサー王物語」が完成したため、分割して学会サイトにアップロードする予定であること、解説記事執筆者が少なかったため、今後メーリングリストに執筆者募集の案内や執筆要項を配信することが通知された。

(4) 2017年度国際大会について

日本からは4名の会員が参加したこと、現代文学におけるアーサー王に関する研究発表が多かったこと等について報告があった。次回の国際大会は2020年イタリアのシチリア島で開催予定。2017年度国際大会についての詳細は、2017年度Newsletter参照。

(5) 贊助会員について

2016年度総会にて承認された賛助会員制度について、丸善雄松堂からの申し込みを受理したという報告があった。

(6) 支部長選挙の結果報告および新役員の紹介

2017年秋に行われた支部長選挙の結果について、選挙管理委員である高橋勇先生（慶應義塾大外）と西川正二先生（慶應義塾大学）により、不破破有理先生（慶應義塾大学）代わり、嶋崎陽一先生（龍谷大学）の当選が発表された。

また嶋崎陽一先生より当選の挨拶と、幹事会新役員の紹介があった。

\*審議事項

(1) 2017年度決算報告（2016年12月1日～2017年11月30日）

会計担当幹事の田中一嘉先生より会計収支決算が報告され、会員の承認を受けた。

収入

項目	収入額
年会費（60件）	255,000
寄付金（1件／2口）	2,000
入会金（1件）	3,000
小計	260,000
<b>【支部大会関連収入】</b>	
大会参加費	34,000
懇親会費(補助金含む)	183,600
書店出展料	10,000
小計	184,000
2016年度からの繰越金	860,473
普通預金口座利子	5
<b>総計</b>	<b>1,348,078</b>

支出

項目	支出額
学会誌刊行・発送費	177,598
ホームページ関連費用	6,469
事務用品代・雑費	38,251
通信費	64,677
振込手数料	3,148
小計	290,143
<b>【支部大会経費】</b>	
学生アルバイト代	10,000
懇親会費用	172,397
事務用品代・雑費	11,946
小計	194,343
2018年度への繰越金	863,592
<b>総計</b>	<b>1,348,078</b>

(2) 2018年度予算案提出（2017年12月1日～2018年11月30日）

続いて2018年度予算案が提出され、会員の承認を受けた。

収入

項目	収入額
年会費(会員数 90名 @3,000円)	270,000
寄付金	5,000
入会金	9,000
賛助会員(丸善雄松堂)	5,000
小計	289,000
<b>【支部大会関連収入】</b>	
大会参加費	30,000
懇親会費	150,000
小計	180,000
2017年度からの繰越金	863,592
普通預金口座利子	10
<b>総計</b>	<b>1,332,602</b>

支出

項目	支出額
学会誌刊行・発送費	200,000
ホームページ関連費用	12,000
事務用品代・雑費	42,000
通信費	30,000
振込手数料	5,000
小計	289,000
<b>【支部大会経費】</b>	
学生アルバイト代	10,000
懇親会費用	150,000
事務用品代・雑費	20,000
小計	180,000
2019年度への繰越金	863,602
<b>総計</b>	<b>1,332,602</b>

(3) 新入会者承認について

以下3名の入会希望者の入会が承認された。

小川佳章氏（推薦者：高名康文・渡邊徳明）

杉山ゆき氏（推薦者：松田隆美・不破有理）

粕谷芳弘氏（推薦者：田中一嘉・不破有理）

#### (4) Web委員会内規と委員委嘱

2015年度度総会にて設置が承認されたWeb委員会（会則11条参照）について、各委員の職務や任期についての内規を制定することが提議され、会員の承認を受けた。内規は2017年度総会承認後、日本支部の学会ウェブサイトに掲載される。

2018年度からのWeb委員会は、以下の会員で構成されることが承認された。

Web委員長：不破有理

「アーサー王伝説解説」編集委員：

細川哲士（仏）、不破有理（英）、田中一嘉（独）  
学会公式ツイッター担当委員：小路邦子、滝口秀人  
学会ウェブサイト担当委員：岡本広毅

（文責：新居明子）

#### 研究発表要旨

①Vinaver, E. K. Chambers, C. S. Lewis：微妙な関係  
高宮 利行

Eugène Vinaver (1899-1979), E. K. Chambers (1864-1954), C. S. Lewis (1898-1963) は、それぞれ Oxford で占めた位置は異なるものの、*Le Morte Darthur* に強い関心をもっていた。Vinaver は Winchester MS の 3 卷本の校訂版を 1947 年に Clarendon Press から出版し、Chambers は Oxford History of English Literature, vol. 2: *At the Close of the Middle Ages* (Clarendon, 1945) に Malory に関する一章を加えた。Lewis は Vinaver, ed., *The Works of Sir Thomas Malory* を書評し、その改訂テキストは J. A. W. Bennett, ed., *Essays on Malory* (Clarendon, 1963) にも掲載された。

発表者は OUP Archive の中に、Vinaver の D.Litt. 申請に対して Lewis が報告した否定的なコメントがあることを発見した。本発表では Vinaver をめぐる微妙な関係を探った。

②『新版ルナール』と『アーサー王の死』における運命の女神

高名康文（成城大学）

『狐物語』（12世紀後半から13世紀中頃）の創作が一段落してから、その登場人物を借りつつも、ル

ナールが偽善と惡の象徴として支配する世を悲観的な世界觀から描くという意味で、性格を異にする後継作が書かれた。そのうちの一つである『新版ルナール』（13世紀後半）の後半部では、王に反旗を翻したルナールが、最終的に和平をした後、詐術を評価されて聖俗の権力者に迎えられ、惡の化身としてこの世に君臨する。その最終部に運命女神が運命の輪と現れて、車輪に登ることを躊躇するルナールを、車輪が回らないように支えておくから登りなさい、と励ますエピソードがある。本発表では、『アーサー王の死』（1230年頃）でアーサー王の夢に出てくる運命女神のエピソードが、『新版ルナール』に影響している可能性について論じた。

『新版ルナール』の後半部は、『狐物語』の中でも特に第XI枝篇「皇帝ルナール」の影響を強くうけているが、そこには、ノーブル王が王国に侵入してきた異教徒を征伐に行く間に、ルナールがかつてより関係のあった王妃と結婚をして王位を篡奪するというエピソードがある。これが、『アーサー王の死』でのモルドレのアーサー王への反逆のパロディーであるというR.ベロンの説は通説になりつつある。本発表では、『狐物語』の初期枝篇の第I枝篇から、その続編のIa, Ib枝篇、XI枝篇を通してアーサー王伝説の影響から形成された登場人物の関係が『新版ルナール』に持ち込まれる様を観察した。この流れと、同時代の俗語文学において運命女神が登場人物に直接言葉を向ける例はこの2作品以外に見当たらないことを考えれば、『新版ルナール』の作者が『アーサー王の死』を意識していないとは、むしろ考えにくい。

ベロン説は、L.フーレが提示した1205年という第XI枝篇の推定成立年代とは相容れないが、本発表ではフーレの論を検証して、この部分は近年の美術史における研究成果から打ち消せることを指摘した。

③ゴットフリートの『トリスタン』におけるマルケ王の人物像と「宫廷」の意味—アーサー王との比較を通じて—

田中一嘉

中世トリスタン伝承は早い段階からアーサー王の素材が組み込まれた形で作品が残されているが、13世紀初頭のゴットフリート・フォン・シュトラースブルクの『トリスタン』では、アーサー王は作中に登場しない。本発表は、なぜゴットフリートはアーサー王の存在を用いなかったのかという疑問に対して、作品の重要な副主人公とも言えるマルケ王の人物像および彼の宮廷の存在意味についてアーサー王のそれと比較考察することによって、ひとつの仮説を提示するものである。

ゴットフリート版前半部においてマルケ王は、トリスタンの行為と比しておよそ「英雄的な」君主像からは程遠い存在として描かれている。また、後半部においては、清い恋の体現者たるトリスタンとイゾルデとの対比において、（心ない家臣たちに焚きつけられた）嫉妬に狂う夫として否定的な描かれ方をしている。しかし、このことがマルケ王の宮廷全体の名誉を失墜させることはない。宮廷は、その構成員の行為を「裁定のプロセス」に従って判断・評価する機能を有しているのみである。

これらのこととは、クレチアン・ド・トロワの諸作品におけるアーサー王の描写を酷似している。アーサー王自身は、物語の中では行為する者としては描かれないものの、アーサー王の宮廷は円卓の騎士たちの名誉を承認する場、いわば「名誉の象徴」として描かれている。これと同様のことが、マルケ王の宮廷でも起こっているのである。つまり、ゴットフリートは作中にアーサー王を登場させず、アーサー王とその宮廷の役割をマルケ王のそれに置き換えたと想定することが出来る。もしそうであれば、ゴットフリートは（作品自体は未完に終わっているものの）表面的には不義密通の関係であるトリスタンとイゾルデの恋を、名誉の象徴としての宮廷から承認された清い恋として締めくくろうとしたと考えることもできよう。

### シンポジウム要旨

「ポップ・アーサリアーナ：サブカルチャーにおけるアーサー王物語の受容と変容」

コーディネーター・序論 小路 邦子

近年内外の映画、アニメ、ゲーム、演劇、ミュージカルなど様々な分野においてアーサー王物語が題材に取り上げられ、ブームの観を呈している。多くの若者たちが、これらの媒体を通じてアーサー王物語の片鱗に触れている。しかし、その内容は独自に設定されたものが多く、中世のロマンスなどによって我々が馴染んでいるものとはかなり異なっている。特に、日本のゲームとアニメにおいては伝統的なモチーフの使用にとどまらず独自の進化を遂げている。中でも若者に絶大な人気を誇る *Fate* は、ゲームに始まり、TV アニメや劇場アニメ映画とこの数年間多彩な媒体を通してアーサー王物語の語彙を広めてきた。だが、その独自の設定を見ると、戸惑わざるを得ない。なにしろ、アーサーは「マスター」に仕えるために召喚された「女体化」した「英靈」なのだから。しかも、モードレッドには「父上」と呼ばれている。そして、古今東西の英雄と共に「あらゆる願いを叶えてくれる聖杯」を争う戦いに参加する。あるいは、最新のアーサーもの映画であるガイ・リッチャーの『キング・アーサー』(2017)は、ヴォーティガンをアーサーの王位を簒奪した「叔父」としているのである。

こうした状況を鑑みるに、アカデミズムの側でもただ傍観しているわけにはいかなくなってきたのではないだろうか。そこで、本シンポジウムではこうしたサブカルチャーにおいて、アーサー王物語がどのように取り上げられ、また同時に変容されているのかを検討してみた。

① 「Role-Playing Game における中世主義とモンスター表象——日本における受容のあり方を巡って」

岡本広毅

碩学ウンベルト・エーコは、自由に修繕・加工された「中世」のイメージやモチーフ、文学的素材が溢れる現代のポップ・カルチャーの有様を、“neomedievalism”と表現した。今日、この現象が顕著に見られるのがデジタルゲームの領域である。特にRPG (Role-Playing Game) というジャンルは、現代における中世像の形成・再生産に大きく寄与

している。本発表では、“neomedievalism”の流れを汲む日本のRPGの歴史を概観し、その受容のあり方と内容的変遷、そしてアーサー王物語（「中世ロマンス・ジャンル」）との関連性を検討した。1994年に発行されたテレビゲームの批評雑誌『ゲーム批評』では、「ファンタジーは死んだのか」という特集が組まれ、西洋中世風のRPGの氾濫とそれに対する食傷気味な反応が示されている。これは「剣と魔法」を軸とするファンタジー世界からの変化の兆である。こうした中、1995年に発売された『クロノ・トリガー』に焦点を当て、従来とは異なるRPGの要素—中世という舞台設定、囚われの姫君のモチーフ、円卓の振り(The Knight of the Square Table)、モンスター表象など—を検討した。本作はRPGの「定石」を削減するというよりも、時代設定やアーサー王物語のモチーフなどを意識的に組み込み、パロディ風にアレンジすることで、「現代」との接点・関わり合いを印象付けていたように思われる。この点は、中英語ロマンス*Sir Gawain and the Green Knight*における「ロマンス」の扱いとも無縁ではない。両者は、それぞれの芸術領域の円熟期に創作されたものとして、「ジャンル」に対する一種のメタ的視点を共有しているのだ。このように、現代の我々はゲームを通して、間接的ながらも中世ロマンスの物語世界（RPGの源泉）の一端に触れており、それゆえ、現行の“neomedievalism”を巡る議論に日本独自の視点を与えることができると結論づけた。

## ②「アーサー王物語の登場人物の諸相：中世と現代の人物描写イメージを比較して」

滝口秀人

近年、アーサー王物語の登場人物や物語中のアイテムが、アニメやスマホゲームに多く取り入れられている。キャラクターデザインが重要であるアニメやゲームにおいて、アーサー王物語の登場人物は、どのように見た目を設定されているのであろうか。

アーサー王関連の事柄が取り上げられている多数のアニメ・ゲームの中から「燃えろアーサー」

「ディバインゲート」「モンスターストライク」「Fateシリーズ」「コードギアスシリーズ」の5作品を取り上げた。それぞれの作品について「アーサー」「ランスロット」「トリスタン」「ペルスヴァル」「マーリン」の5人物の描写イメージを提示した。あわせて、各人物について中世写本に見られる図像も提示し、髪の色や目の色、体形について比較した。

またChrétien de Troyesの5作品Erec et Enide、Cligès、Le Chevalier de la Charrette、Le Chevalier au Lion、Le Conte du Graalにおいて、上記5人に関する文章上の描写を参照し、身体的特徴が何かを探ったが、上記作品中においては、今回求める点についてはあまり記述がないことが分かった。さらに、フランス国立図書館のホームページGallicaで、Chrétien作品の写本を閲覧した（下記にリストを提示）が、対象とした5人物の画像で、現代の作品に影響を与えていたと感じられるものは、ほぼなかった。

その結果見えてきたことは、現代においてアーサー王物語作品は人気を博しているが、キャラクターデザインについては、製作側の自由な発想に基づき描かれているということ。それぞれの制作段階において、デザイナーはキャラクターの性格から着想を得て、なおかつ様々な要求（制作会社および商売上の要求など）をふまえて、デザインしているのではないか。そしてそのような制作経緯や自由な描写は、中世の図像や画家にも同じことが言えるのではないか。なぜならば中世の写本においても、同一人物ではあるがキャラクター描写は異なることがあるからである。

GallicaにおけるChrétien de Troyesの写本リスト  
Erec et Enide（フランス語写本375番, 794番, 1450番, 1736番, 1420番）  
Cligès（フランス語写本375番, 794番, 1420番, 1450番, 12560番）  
Le Chevalier de la Charrette（フランス語写本794番, 1450番, 12560番）  
Le Chevalier au lion（フランス語写本794番, 1433番）

1450番, 12560番, 12603番)

Le conte du Graal (フランス語写本794番, 1429番, 1450番, 1453番, 12576番)

③「そして伝説へ：『ドラゴンクエスト11』における騎士道とアーサー王」

小宮 真樹子

アーサー王伝説は現代日本のゲームに影響を与えており、2017年に発売された『ドラゴンクエスト11』においても興味深いモチーフが目立つ。『悪魔の子』と呼ばれた主人公が王に命を狙われる逸話はマーリンの幼少時代を彷彿とさせるし、選ばれし者だけが引き抜くことのできるエクスカリバーのような剣が物語の鍵となる。また、故人ではあるがアーサーという名の王と、彼の率いた騎士団の栄光が記録されている。

けれども、仲間キャラクターの中で唯一「きしどう」というスキルを扱うシルビアは、流浪の旅芸人にしてトランスジェンダーという異色の経歴を持つ。彼（女）は騎士にして乙女、二重のアイデンティティを備えているのだ。また、もう一人の仲間の騎士グレイグは、民への奉仕こそが騎士に相応しい振る舞いだと主張する。この理念は平民の命など歯牙にもかけない中世ヨーロッパの騎士とは対照的である。

さらに、トマス・マロリーの『アーサー王の死』がペンテコステの誓約を通じて騎士道の理想と現実の齟齬を浮き彫りにしたのに対し、『ドラゴンクエスト11』の登場人物たちは「騎士に二言はない」という格言を掲げ、言動を一致させる形での騎士道を貫いている。

このように、歴史的事実に拘泥せずに騎士を描いている点は実に興味深い。アーサー王物語も時代や地域ごとに様々な解釈が生み出され、新たな伝説として容認されていった。同様に『ドラゴンクエスト11』も現代日本人好みに合わせ、大胆に理想の騎士像を改変しているのである。偉大なる王アーサー亡き後の世界、この舞台設定こそが『ドラゴンクエスト11』のスタンスを示していると言えよう。過去の英雄アーサーと彼の騎士

団は作中で讃えられてはいるが、『ドラゴンクエスト11』の世界で奉じられているのは別の、新たな形の騎士道なのだ。

④「『キング・アーサー』（2017）に見る中世のモチーフとその変容」

小路 邦子

ガイ・リッチー監督による新たなアーサーものの映画『キング・アーサー』は、これまでのアーサー王映画では扱われてこなかったヴォーティガンという悪役を、アーサーに対抗する者として登場させた。さらに、モードレッドはヴォーティガンと手を結んでユーサーの国を乗っ取ろうとしていた「大魔術師」として登場しながらも、冒頭早々にユーサーに討ち果たされる。王位を簒奪しようとするヴォーティガンの手から小舟で逃れたアーサーは、ロンディニウムの売春婦たちに拾われてそこで育つ。時代は、ローマがブリテン島から去って、かなりの時間が経っている8世紀あたりのようである。

このように、伝統的なアーサー王物語の筋とはかなりの相違を見せているのだが、エクスカリバーを岩から抜けるのはアーサーのみ、というように物語の核は押さえている。しかし、それ以外にも形を変えて伝統的なモチーフがそこかしこに埋め込まれていた。例えば、小舟で逃げたアーサーは水に流される子供であり、Fair Unknownのモチーフになっている。また、強烈な光を放ってヴォーティガンの塔を破壊するエクスカリバーの力は、アーサーが抜き放つと輝かしい光を放った、というフランスやマロリーの記述を思わせる。そして、ヴォーティガンが炎に包まれた塔と共に滅びるのは、『ブリタニア列王史』にある通りである。また、本作では塔を破壊する際、巨大な蛇が登場するが、これは『列王史』でドラゴンのせいで塔が崩れたエピソードの変形に思われる。蛇とはドラゴンの謂だからだ。こうして、一見伝統的な物語からはまるで離れているように見える本作も、実はそこかしこに姿を変えて中世からのモチーフを潜ませていた。さらに興味深いのは、ヒットラー

の姿が重なる暴君ヴォーティガンに対して、アーサーには救世主としての姿も重ねられていることである。

## II. 電子化について

国際アーサー王学会日本支部では、会員の皆様への連絡手段に、メーリングリスト等の電子媒体を活用しております。ただし、ご希望の方へは郵送での連絡を続けております。まだご回答いただいている場合、庶務の小宮（[office@arthuriana.jp](mailto:office@arthuriana.jp)）までご連絡くださいますようお願いいたします。

## III. メーリングリスト登録アドレスについて

メーリングリストにおける不具合の原因となるため、「hotmail」や「aol」の参加登録を停止いたしました。

希望の方には、日本支部よりメールアドレスを新規発行いたします。事務局までご連絡ください。

## IV. 会計からのお願い

2018年度分（ならびにそれ以前の未納分の）会費の納入をお願い申し上げます。会費は同封の「払込取扱票」にてお支払いいただくか、下記口座に直接お振込みください。

〈郵便振替口座番号〉

加入者名：国際アーサー王学会日本支部

ゆうちょ銀行口座番号：00250-6-41865

〈ゆうちょ銀行以外の金融機関からの振込み〉

加入者名：国際アーサー王学会日本支部

金融機関：ゆうちょ銀行（コード：9900）

店名：○二九（ゼロニキュウ）店（店番：029）

預金種目：当座

口座番号：0041865

年会費は3,000円です。また新入会員の入会時には入会金3,000円を頂いております。新規入会希望者をご推挙いただく際には、希望者にその旨お伝えくださいますようお願いいたします。

日本支部では、一口1,000円からの寄付金を隨時

募集しております。ご寄付いただけます場合、「寄付〇口」とお書き添えの上、同封の払込票をご利用のうえ年会費とともににお振込みいただくか、直接口座にお振込みください。皆さまの温かいご支援をお待ち申し上げます。（会計：小川直之）

【お知らせ】会費納入が5年連続して確認できなかった場合、退会扱いとさせていただきますのでご留意ください。（この手続きに関しましては、2016年度第1回幹事会にて確定されました。）

## V. 学会サイトについて

学会公式サイトでは、支部大会や国際大会のお知らせを掲載しております。

また、登場人物や作品を詳しく説明する「アーサー王伝説解説」には、円卓、『アーサー王の死』の作者サー・トマス・マロリー、また現代におけるアーサー王として映画やゲームの項目が新たに公開されました。これからも継々登場予定です。ご期待ください。

学会公式ツイッター（@inter\_arthur\_jp）でも随時情報の発信を行っております。写本や映画、新刊などを幅広く紹介しておりますので、ぜひご覧ください。

学会公式サイト

<http://arthuriana.jp/index.php>

学会公式ツイッター

[https://twitter.com/inter\\_arthur\\_jp](https://twitter.com/inter_arthur_jp)

（Web委員長：不破有理）

## VI. 第32回年次大会について

第32回年次大会は次の要領で開催されます。

（詳細は同封の大会資料をご覧ください。）

日時：2018年12月8日（土）13:25 開会

会場：慶應義塾大学 日吉キャンパス 来往舎

懇親会会場：協生館2F「ファカルティラウンジ」

## VII. 研究発表・シンポジウム企画募集

日本支部では随時、支部大会での研究発表・シンポジウム企画を募集しております。ご希望・ご

提案がございましたら庶務までお寄せください。いずれも同年8月末を締切とし、時期に従って当該年度または次年度の大会に組み入れて参ります。

### VIII. 会員名簿に関するお願い

名簿記載事項に変更があった場合は、速やかに庶務までお知らせください。なお会員に配布される名簿に関しては、一部の事項（所属・住所・電話／ファックス番号・メールアドレス）を未掲載にすることも可能です。ご希望がございましたら事務局までお申し出ください。

### IX. 文献情報

ここには、当学会会員であるか否かに関わらず、国内で出版されたものを中心に西洋中世文学関連の刊行物を紹介しています。

#### 英文学（書誌担当：岡本広毅）

##### <研究（単行本）>

木村正俊『ケルトの歴史と文化(上下)』中央公論新社、2018年。

鶴岡真弓『ケルト再生の思想—ハロウィンからの生命循環：ハロウィンからの生命循環』筑摩書房、2017年。

鶴岡真弓『ケルトの想像力—歴史・神話・芸術—』青土社、2018年。

三谷康之『イギリス中世武具事典: 英文学の背景を知る』日外アソシエーツ、2018年。

##### <研究（雑誌・紀要論文等）>

伊藤盡「生き埋めにされた伝説：ヒストリーとストーリーの狭間のイングランド黎明奇譚」『ユリイカ：詩と批評』（特集カズオ・イシグロの世界）49巻21号、2017年、pp.203-13.

茨木正志郎「中英語における二重属格の出現と発達について」*Human welfare*（関西学院大学人間福祉学部研究会）10,1、2018年、pp.139-148.

岡本広毅「Dark Phantoms in the Wind : J.R.R. トールキンの研究業績における〈フィロロジー〉と〈文学研究〉の諸相」『英米文学』（立教大学文学部英米文学専修）78、2018年、79-101.

Hiroki OKAMOTO（岡本広毅），“Curious fact : Fading of Northernisms in *The Reeve's Tale.*”『チョーサー研究会会報』5、2017年、pp. 3-21.

貝塚泰幸「*The Romance of Sir Beues of Hamtoun*における動物裁判の役割」『チョーサー研究会会報』5、2017年、pp. 22-34.

神谷昇「古英語と中英語における非人称構文の統語構造」『千葉大学教育学部研究紀要』66、2、2018年、pp. 277-283.

木下誠「A・R・オラージュの中世主義的モダニズム：ヴィクトリアニズムとモダニズムの文化の分断/継承」（エッセイ特集 ヴィクトリア朝研究の現在）『ヴィクトリア朝文化研究』15、2017年、pp. 217-31.

日下隆平「イギリスの中世主義：ウォルポールとモリスの間にあるもの」（清水真一教授退任記念号 国松夏紀教授退任記念号 GONZALEZ Dario 教授退任記念号）『人間文化研究』（桃山学院大学）8、2018年、pp. 73-100.

Kumamoto Sadahiro（隅元貞広），“Chaucerian ‘Tone’: A Tentative Study on Chaucer’s Poetic Language.”『熊本大学社会文化研究』16、2018年、pp. 61-76.

島崎里子「古英語期における chaste marriage に見る女性像 —Aldhelm, Bede, the Old English Martyrology and Alfric」『昭和女子大学女性文化研究所紀要』45、2018年、pp. 1-12.

杉山ゆき「「聖なる教会の娘」の故郷?: チョーサーの『弁護士の話』におけるローマ表象」『藝文研究』114、2018年、pp. 228-217.

Masako TAKAGI（高木眞佐子），“The Printer’s Copy at Caxton’s Print Shop: Some Observations on Huntington MS HM 136.” *Kyorin University Review* 30, 2018, pp. 67-85.

[This article explores aspects of William Caxton’s printing by comparing the copy-text for the *Chronicles of England* to the printed edition. Especially, the order of type-setting is examined. The frequency of omissions from the copy-text indicates the text was more drastically cut in the latter half of a quire.]

永井一郎「『アイルランド地誌』を読む：ギラルド・ドゥス・カンブレンシスの執筆意図にかかるわらせて」『国学院経済学』66、1、2018年、pp. 51-93.

Yuri FUWA（不破有理），“Paving the Way for the Arthurian Revival: William Caxton and Sir Thomas Malory’s King Arthur in the Eighteenth Century.” *Journal of the International Arthurian Society*, De Gruyter (Germany), vol. 5, no.1. 2017, pp.59-72.

不破有理「作者・編集者・出版者・読者のしなやかな境界—サー・トマス・、マロリーの『アーサー王の死』のテクスト改変の歴史」『文献学の世界：書物の境界』、安形麻理編、慶應義塾

大学文学部極東証券寄附講座 2017 年度報告書、  
2018 年、pp.57-69.  
守屋靖代「中英語韻律分析—grammatical template  
による繰返し技巧の解明—」『国際基督教大学  
学報』60、2018 年、pp.73-89.

<原典、研究書の翻訳>  
菊池清明『中世イギリスロマンス ガウェイン卿  
と緑の騎士』、春風社、2018 年。  
テリー・ジョーンズ、アラン・エレイラ著『中世英  
国人の仕事と生活』（高尾菜つこ訳）原書房、  
2017 年。  
マイケル・ケリガン著『図説ケルト神話伝説物語』  
(高尾菜つこ訳) 原書房、2018 年。  
吉見昭徳『古英語叙事詩『ベーオウルフ』—クレ  
ーバー第 4 版対訳』春風社、2018 年。

独文学（書誌担当：田中一嘉）

<研究（単行本）>  
河崎靖『ルーン文字の起源』大学書林、2017 年。

<研究（雑誌・研究紀要等）>  
阿部善彦「貧しさは所有の放棄か：エックハルト  
の「ドイツ語説教 74」を手がかりに」（特集  
托鉢修道会：中世後期の信仰世界）、『西洋中  
世研究』第 9 号、2017 年、pp. 8-26。  
稻田隆之「トリスタン和音」再考 —ヴァーグナ  
ーの《トリスタン》におけるその多義性と半  
音階法の関係—Rethinking the Tristan Chord :  
The Relationship between its Ambiguity and  
Chromaticism in Wagner's Tristan」、『武蔵野  
音楽大学研究紀要』第 49 号、2018 年 pp.19-37。  
香田芳樹「正義の女神は苦しむものに秤を傾ける  
古代・中世ヨーロッパ文学に描かれた配分的  
正義と交換的正義」、『ドイツ文学』152 卷、  
2016 年、pp.8-23。

田中一嘉「ゴットフリートの『トリスタン』にお  
ける策謀の力学(2)マルケ王の人物像と「宮廷  
の意味」、『成蹊大学文学部紀要』第 53 号、  
2018 年、pp.49-163。

寺田龍男「『ヴィルギナル』研究の歴史・現  
状・課題：ブレーメン版の刊行に寄せて」、  
『北海道大学大学院教育学研究院紀要』第 129  
号、2017 年、pp.115-134。

寺田龍男「ハインリヒ・フォン・ミュンヘンの  
『世界年代記』：研究の現状と課題」、『メデ  
ィア・コミュニケーション研究』第 71 号、  
2018 年、pp.111-142。

寺田龍男 "Das Nibelungenlied in Japan bis 1945 : eine  
Pseudorezeption?"、『独語独文学研究年報』第  
44 号、2018 年、pp.159-172.

広瀬大介「ワーグナー《トリスタンとイゾルデ》  
におけるライトモティーフの変容：第 1 幕前  
奏曲冒頭楽節を例に」、『パラゴーネ』（青  
山学院大学比較芸術学会）、2017 年、pp.16-  
30.

<翻訳>

ヨハネス・デ・テプラ著『死神裁判：妻を奪われ  
たボヘミア農夫の裁判闘争』（青木三陽、石川  
光庸共訳）、現代書館、2018 年。

北欧文学（書誌担当：田中一嘉）

<監修>

ジョン・ヘイウッド著『図説ヴァイキング時代百  
科事典』（村田綾子訳、伊藤盡監修）、柊風舎、  
2017 年。

仏文学（書誌担当：横山安由美）

<研究（雑誌・研究紀要等）>  
池上俊一「思想の言葉 脊る魔女（魔女研究の新  
潮流）」『思想』1125、2018 年、pp.2-5。

Yoshio KONUMA（小沼義雄）, « La figure de  
Gauvain au tournoi de Tintagel : La parodie  
autoréférentielle dans Le Conte du Graal de  
Chrétien de Troyes », *The bulletin of Saitama  
Prefectural University*, t.17, 2015, pp.1-15.  
Shigemi SASAKI（佐佐木茂美）, « Bibliographie  
des Etudes sur Christine de Pizan au  
Japon », in *Ton nom sera reluisant après  
toy par longue memoire Etudes sur  
Christine de Pizan sous la rédaction  
d'Anna Loba*, Uniwersytet im. Adama  
Mickiewicza W Poznaniu seria Filologia  
Romanska NR 61 (ポーランド), 2017, pp.  
391-399. [「クリスティーヌ・ドゥ・ピザン学会」  
の主催者ポツナム大学フランス文学科アンナ・  
ロバ教授から依頼された「日本におけるクリス  
ティーヌ・ドゥ・ピザン」という講演（司会は  
ソルボンヌのセルキリーニ・トゥレ教授）の載  
録で、著書・論文・翻訳・書評等を考察・紹介。  
同学会は 14-5 世紀の女流詩人についての文献  
学的考察を標準にした国際学会である。]  
佐佐木茂美「〈回顧〉から〈永久保存〉へ（ある  
学究の追想余緒）——佐藤輝夫教授没後二十年」  
『流域』81、2017 年、pp.13-18. [2017 年の徳島]

- 県立文学書道館での「仏文学者・佐藤輝夫の軌跡」展についてなど。】
- 篠田勝英「狼が来た」『Lilia candida』（白百合女子大学フランス語フランス文学会）48、2018年、pp.5-8.
- 瀬戸直彦「アササン Assassin という単語の初出について : Io stava come il fate che confessa lo perfido assassin... (Dante, Inferno, XIX, 49-50)」、*Etudes françaises*（早稲田大学文学部フランス文学研究室）25、2018年、pp.22-41.
- 高名康文「『マントのレー』における「誠実」という語の使用例：「大切なこと」は言葉で語られるのか？」『ヨーロッパ文化研究』（成城大学大学院文学研究科）37、2018、111-127.
- 村山いくみ「『寓意オウイディウス』におけるトロイア戦争の叙述と解釈：「ヘクトルの死」をめぐって」『国際交流研究』（フェリス女学院大学国際交流学部）19、2017年、pp.201-225.
- 渡邊浩司「中世後期のアーサー王神話—『パブゴーの物語』をめぐって」、篠田知和基編『文化英雄その他』、比較神話学研究組織 GRMC、2017年、pp. 125-134.
- 渡邊浩司「アーサー王物語のケルト的要素—魔術師・妖精・異界・媚薬・聖杯」、木村正俊編『ケルトを知るための65章』、明石書店、2018年、pp. 285-289.
- <翻訳>
- フィリップ・ヴァルテール『アーサー王神話大事典』（渡邊浩司・渡邊裕美子訳）、原書房、2018年.[アーサー王物語の神話的側面を中心に編纂された事典。600近くの項目で、神話だけでなく、文学、歴史、人類学、考古学、文献学、語源学など、多岐に記述している。]
- フィリップ・ヴァルテール「ローラン、トリスタン、ペルスヴァルー中世ヨーロッパの英雄の3つの顔」（渡邊浩司訳）、『仏語仏文学研究』（中央大学仏語仏文学研究会）第50号、2018年、pp. 139-163.
- ヴィヨン『ヴィヨン 遺言詩集』堀越孝一訳、悠書館、2016年.
- クリスティーヌ・ド・ピザン『詩人クリスティーヌ・ド・ピザン』（沓掛良彦・横山安由美編訳）、思潮社、2018年.[本邦初のクリスティーヌの抒情詩翻訳]
- ジャン=シャルル・ベルテ「スヴネ・ゲルト—中世アイルランドの狂乱戦士」（渡邊浩司、渡邊裕美子訳）、『中央評論』（中央大学）70巻1号（通巻第303号）、2018年、pp.122-131.

ジャン=シャルル・ベルテ「ライロケン—中世スコットランドの野人=占者」（渡邊浩司、渡邊裕美子訳）、『中央評論』69巻4号（通巻第302号）、2018年、pp. 127-136.

#### <書評>

渡邊浩司「クロード・ルクトゥー+コリンヌ・ルクトゥー編訳『彼方への旅と不思議な冒険—中世の民話と物語』」、『中央評論』70巻1号（通巻第303号）、2018年、p. 242.

中世ラテン文学・伊文学・西文学・その他（書誌担当：横山安由美）

#### <研究（雑誌・研究紀要等）>

Yoshinori OGAWA（小川佳章），“Amores sangrantes: sexo y violencia en *El conde Lucanor*”, in ed. Francisco Toro Ceballos, Juan Ruiz, *Arcipreste de Hita, y el Libro de buen amor Dueñas, cortesanas y alcabuetas* : Libro de buen amor, La Celestina y *La lozana andaluza*, Alcalá la Real, Ayuntamiento, 2017, pp. 241-248.

Yoshinori OGAWA（小川佳章），“Lengua incorrupta: un motivo común en los milagros marianos y en *Konjaku monogatarishu*”, in ed. José Carlos Ribeiro Miranda, *En Doiro antr'o Porto e Gaia: estudios de literatura medieval ibérica*, Porto, Estratégias Criativas, 2017, pp. 783-790.

クリストファー・デ・ハーメル『世界で最も美しい12の写本—「ケルズの書」から「カルミナ・ブランナ」まで』（加藤磨珠枝・松田和也訳）、青土社、2018年.[ウルフソン歴史賞、ダフ・クーパー賞ダブル受賞作のビブリオスリラー]

#### <翻訳>

ジョヴァンニ・ボッカチョ『名婦列伝』瀬谷幸男訳、論創社、2017年.[ラテン語原典より本邦初訳]

#### 補遺 ～中世ヨーロッパを舞台にした漫画～

\*該当する書籍の一部を挙げてみました（ルネサンス含む）。アニメやゲームについては学会HP「アーサー王伝説解説」の滝口秀人先生の記事をご覧ください。

青池保子『修道士ファルコ』1~5、秋田書店 [騎士から修道士に転身したファルコ]

青池保子『ケルン市警オド』1~2、秋田書店 [ドイツが舞台の推理小説]

青池保子『アルカサルー王城』1~13、秋田書店  
[14世紀スペイン、ドン・ペドロの生涯]  
池田理代子・宮本えりか『女王エリザベス』講談  
社 [16世紀イングランド]  
大久保圭『アルテ』1-9、ノース・スターズ・ピク  
チャーズ [16世紀フィレンツェで画家修業に励  
む女の子]  
トミイ大塚『ホークウッド』1-8、角川メディアフ  
ィクトリー [百年戦争期の傭兵隊長]  
大西巣一『乙女戦争 ディーヴチー・ヴァールカ』  
1-10、双葉社 [チェコを舞台にした宗教戦争と  
フス派]  
蒲生聰『ガーター騎士団』1-3、角川 [14世紀、同  
騎士団はアーサー王と円卓の騎士がモデル?] ]  
菅野文『薔薇王の葬列』1-10、白泉社 [シェイク  
スピア『ヘンリー6世』『リチャード3世』が  
ベース]  
久慈光久『狼の口 ヴォルフスムント』1-8、角川  
エンターブレイン [14世紀のアルプス地方が舞  
台、モルガルテンの戦いなど]

ハロルド作石『7人のシェイクスピア Non sanz  
droict』1-5、講談社 [16世紀イングランド、シ  
エイクスピアの謎]  
惣領冬実『チーザレ 破壊の創造者』1-11、講  
談社 [15世紀イタリアのチーザレ・ボルジア  
とメディチ家]  
竹良実『辺獄のシュヴェスター』1-6、小学館 [魔女  
狩りとドイツの女子修道院]  
萩尾望都『王妃マルゴ』1-6、集英社 [16世紀フラン  
ス、マルグリット・ド・ヴァロワ]  
はやさかあみい・桐生操『風の王宮』小学館 [メ  
アリ・スチュアート]  
古屋兎丸『インノサン少年十字軍』1-3、太田出版  
[少年十字軍]  
山岸涼子『レベレーション(啓示)』1-3、講談社  
[ジャンヌ・ダルクの生涯]  
山田南平『金色のマビノギオン』1-2、白泉社 [小  
路先生お勧めのアーサー王伝説のコミック化]  
幸村誠『ヴィンランド・サガ』1-21、講談社 [11  
世紀ヴァイキングの叙事詩]

編集・発行

国際アーサー王学会日本支部事務局

〒577-0813 大阪府 東大阪市 新上小阪228-3  
EキャンパスA館 近畿大学 文芸学部  
小宮真樹子 研究室内  
Email: office@arthuriana.jp

メーリングリスト : members@ml.arthuriana.jp  
学会ウェブサイト : <http://www.arthuriana.jp/index.php>